タイムボカンシリーズ

オシャカマン

制作No. 3
放映No. 3

「妖怪は太めがお好き」

企画・制作　竜の子プロダクション
原　　　作　竜の子プロ企画室

脚本

筒井ともみ

主なるキャラクター

ヤンヤン

ダサイネン

トンメンタン

孫田空作（オシャカマン）

三蔵法子

サーゴ浄

猪尾八ッ男

オモンキ

オチャカ校長

かんの先生

オシャカン鳥

ドクター・アダム（ナマズ妖怪）

村人一

〃　二

〃　三

その他

活弁士の声

1

オシャカ学園・校庭

用務員のおじさんが掃除をしている。
聞こえてくる賑々しい手まり唄。
♫ あんたがたどこさ、ヒゴさ、ヒゴどこさ、知らないよン……
ポーン！　塀を越えて飛び込んできたゴムマリがおじさんの頭に命中。

用務員「痛た、た…」

と、半ズボンにミニスカート、鼻水たらしたガキに変装した三悪トリオが駆け込んで来る。

トンメンタン「おいちゃん、ごめん！」
ダサイネン「あれっ？ゴムマリちゃん、どっかなアン」
用務員「ボールならほれそこに……」

ヤンヤン、近くに転がったゴムマリを蹴っぽって

ヤンヤン「いーのいーの、あたいたち、自分で探ちゅもーん！」

ドタスタと校庭を駆けていく。

用務員「子供は無邪気でいいもんだべ。ンにしても、ちとヒネた顔の子供だったべな…」

2

同・校長室の裏手

ゴムマリを抱えて忍び足でやってくるヤンヤンたち。

と、校長室から荘厳なるワーグナーの調べが聞こえている。

ダサイネン「地獄からコッポラさんでもみえてるのかしらン…」

そっと首を伸ばすヤンヤンたち。

3

同・校長室の中

後光をたたえたオシャカ校長の前で、法子ちゃん、浄、八っ男が膝まづいている。豊かな胸に手を組み、慈眼で見守るかんの先生。

「オシャカン鳥、参上！」

いずくからともなく飛来したオシャカン鳥、校長の仏像頭に止まって

オシャカン鳥「求めよ、さらば与えられるよエデンの池」

法子「エデンの池」

オシャカ校長「ほんじゃま、今週のオシャカ一句……腹も身のうち、腹八分目〜〜」

「あー、ありがたやありがたや」とひれ伏す一同を尻目に

オシャカン鳥「アホ〜〜、アホ〜〜」
飛び去っていく。

4 同・外

オモンキ抱いて駆けてくる法子ちゃんたち。
浄「よーしッ三つめのパズルの破片もいただきだ！」
そこへ白馬も走ってくる。
八っ男「オモンキ、たのむぞ！」
法子「タイムオモンキ、ＧＯ!!」
オモンキと指先合わす一同。
ビ〜〜ッと オモンキの尻が赤く赤光するや、瞬時にして姿を消している。
ハンカチ振って見送る校長とかんの先生。
かんの先生「オシャカさま、どうか法子ちゃんたちを無事にお守り下さい…」
校長「かんの先生は、ほんま観音菩薩みたよにやさしかねえ。わしにもやさしゅうして…」
すり寄るのをさらりとかわして

かんの先生「煩悩に負けてはなりません。午後のおつとめを…」

数珠を出してもみしだく。

パパンパパンパパン！　と大扇子を叩く音がずり上がって、

活弁士の声「かの三蔵法師の子孫、法子ちゃんたちが旅に出たのは、云わずと知れたコッパズル探し。だが、それをば横取りしてオシャカパズルのお宝を手に入れんと企むのは、ご存知、三悪トリオ！パンパンパンパンパン」

（O・L）

5

〝イケズ荘〟・裏口

扇子の音にのって、偽法師姿で飛び出して来るヤンヤンたち。

ドターっとポリバケツに蹴つまづいて頭からゴミを被る。

トンメンタン「プッ〜〜ッ　旅に出る前から縁起わるいでまんねん」

ダサイネン「ぼくちゃんたちの計画、またオシャカになっちゃうのかしらン」

ヤンヤン「そういう悲観的な考え方をする処が中年なんだよ」

ダサイネン「そ、そーよね　もっと前向きに、笑う角には福来たる　ホーホッホホ」

トンメンタン「ヒヒヒヒ」
ダサイネン「ケケケ」
トンメンタン「ガハッハハハ」
ヤンヤン「アホか、お前ら！」
どつかれてポリバケツにお尻を突込むトンメンタンたち。
ヤンヤン「くずくずさらしちゃいらんないよ、エデンの池に先回りだ！　へイ、カモン!!」
「ヒヒ〜〜ン」と、何処からともなく空作をのせて参上する龍子ちゃん。
龍子ちゃん「おまっとさんどーすぇ！」
ダサイネン「あんた、それしか云えないの?!」
龍子「（さらに大声で）おまっとさんどーすぇ!!」
後足で蹴っぽられるダサイネン。
ヤンヤン「（目尻を下げ）クーちゃん、良い子強い子でメカの番をしてくれたのねン」
空作「ハイ、お姉さま」
ヤンヤン「ク〜、いとし」

無理矢理に抱き寄せられ撫で撫でされる空作。
批判的な三白眼で睨みながら、
ダサイネン「年増って強引なのよねぇ」
トンメンタン「力ずくは男だけでおまへん」
ヤンヤン「なにゴタスタ云ってンだいッ　さっさと乗らないと捨ててくよ！」
ドロンとデンデンメカになった龍子に乗り込む一同。
三悪「デンデン!!」
ビン！と消えている。

6

のどかな田園風景

ボワンと現われたデンデンメカから降り立つ三悪と空作。
マイコンメカを取り出して
ダサイネン「ピ・ポ・パ…　ぼくちゃんの入力によるとエデンの池ってこのあたりなのよねン」
ヤンヤン「ダサイネンの作ったメカが異常でなけりゃねえ」
ダサイネン「いーわよ、どうせぼくちゃんなんか日蔭のお花…（いじけて背を向ける）」

空作「うわー、あんな処にりんごの樹が…」
　行手に、鈴なりの赤い実を付けたリンゴの巨木がある。
　ヨダレを流して駆け寄るトンメンタン。
トンメンタン「ほな、ごっつぁんでーっせ」
　リンゴをもぎ取っては食らいつく。
ヤンヤン「いやしいッ一人占めはいけないよ！」
ダサイネン「そーよそーよ、快楽は分け合わなくっちゃ！」
　凄まじき食欲であっという間に、リンゴの樹を丸坊主にしてしまう三悪。
　呆れて目を丸めている空作。
三悪「ゲフ…」
　途端、激しい喉の乾きが襲ってくる。
ヤンヤン「ちょ、ちょいとやけに喉が乾かないかい?!」
トンメンタン「（喉かきむしって）カラカラのサハラ砂漠や」
ダサイネン「ヤンヤンさんのお肌みたいン…」
　バシ！　横面はられるダサイネン。
トンメンタン「み、水…　水は何処やーッ」

なぜか、リンゴの樹の前に池の絵と矢印を書いた標識がせり出て
来る。

三悪「あんがとさ〜ン」

突走ッていく三悪

7

森の奥にあるエデンの池

その池に顔を突込み、ガブ飲みしている三悪。
やがて満足気な顔を上げ

トンメンタン「はちきれそうに腹いっぱいや」

携帯用揚子で歯をするダサイネン。

ヤンヤン「（欠伸）ファ〜、昼寝でも…」

コロッと横になるやもう高イビキの三悪。
と、ザワザワと池面が波立ち、妖しげな霧がたちこめてくる。
その霧の中に浮かぶ不気味な目玉——。

妖怪の声「フフフ…但の辛々リンゴとも知らずむさぼり食って、このエデンの
池の水をたっぷり飲んでくれたわい…グハハハ（エコー）」
「お兄さーん、お姉さーん！」と、三悪を探してやって来る空作、

池を見る。
だが、すでに池はもとの静かな水面に戻っている。

空作「……！」

と、眠りこけている三悪を見付けた空作、あッとなる。
いつのまにやら、三悪のお腹が臨月のようにふくらんでいるのだ。

空作「（揺り起こして）た、大変だよ！」

ムニャムニャと濁った目を開ける三悪。

トンメンタン「何や、うるさい小僧やなァ」

ヤンヤン「おーやクーちゃん、こっちおいでェ」

引きずりこもうとする。

空作「そ、そんなことよりみんなのお腹が…」

三悪「お腹……？」

己が腹を見た三悪、目ン玉をむく。

トンメンタン「ど、どないしたんやねん、このポンポコリン」

ヤンヤン「食べすぎにしちゃふくらみすぎだよ」

ダサイネン「ホント。まるで赤ちゃんでも…」

云ってしまって蒼ざめる三悪。

ヤンヤン「ホーホッホホ、何をアホなこと…」
　　ギクッと、ダサイネンとトンメンタンの胸のあたりに目を止める。
　　二人の胸までふっくらと大きくなっている。
トンメンタン「ヒュ〜〜、オチチも張っとるでェ」
ヤンヤン「（冷汗ジトッ）ま、まさか…」

8　森の中

　　どでかい腹を突き出しオロオロとやってくる三悪と空作。
トンメンタン「（大きくなった胸を両手で持ち上げ）ボインって肩のはるもんでまんねん。けど、わい信じられん」
ヤンヤン「パズルも手に入らないってのにこんなハメになるなんて！」
ダサイネン「（泪声）ほくちゃん、まだオヨメにも行ってないのよン傷モンになっちゃう〜〜」
　　丁度通りかかった丸木橋から飛び降りようとする。
ヤンヤン「死ぬ気ならいつだって力を貸すよン」
　　後からどつくヤンヤンとトンメンタン。
ダサイネン「あ〜〜」

必死にしがみついた欄干をよじのぼって

ダサイネン「やっぱ、お医者さまに診てもらってからにするわン」

空作「そうだよ、ただの食いすぎかもしれないもん」

トンメンタン「医者といってもこんな森の中じゃ……おッ、あったでまんねん」

行手の森の中に聴診器マークの看板をつけた医者の家がある。

一緒にいこうとする空作を押しとめて

ヤンヤン「これからはオトナの時間。クーちゃんはお池のホトリで遊んでてェ。ホレ、こづかい上げるから……いいんだよいいんだよ、遠慮しないで、ほんの小銭だよ、さ、さ……」

空作の手に銭を握らせると、三人にして医者の家に駆け込んでいく。

見送った空作、手の平を開いて

空作「ほんとに小銭だ……」

9

医者の家・中

診察を終え、服のボタンを止めていた三悪、ゲーッと息を呑む。

三悪「オ……オ・メ・デ・タ?!」

したり頷くのはナマズひげもやーらしい医者のドクター・アダム。
胸にドクロ型の聴診器をぶら下げている。
トンメンタン「けどわし、男でまんねん」
ダサイネン「ぼくちゃんだって一応…」
ヤンヤン「（つられて）あちきだって」
ドクター・アダム「ほほう、あんさんも男でつか！」
ずっこけるヤンヤン。
ドクター・アダム「（威厳に充ちてもったいぶって）これは恐らく天の啓示…」
トンメンタン「テンノケイジ？…それどないな刑事でんねん。ヨレヨレのコロンボかはたまたツルっぱげのコジャックはん」
ヤンヤン「スカポンタレ！　ったくインテリジェンスがノータリンなんだから」
ダサイネン「そーゆうヤンヤンさんだって…ムギュ」
唇をにねり上げられるダサイネン。
ドクター・アダム「おのおの方も今は大事な体。たっぷり栄養つけて、もっともっと腹をふくらませねば」
三悪「もっともっと…」
ドクター・アダム「それにはエデンの池の水を飲むが一番。古来よりあの池の

水を飲めば安産間違いなしという…フォッフォッフォッ」
だが、その目だけは冷たく笑っていない。

10　エデンの池の近く

空作がはんごうすいさんの準備に忙しい。
ずんぐりした体でトボトボやってくるヤンヤンたち。

ダサイネン「（しみじみと）人生ってホント、一寸先はまっくら闇なのよねン」

ヤンヤン「けど今いち合点がいかないんだよねぇ」

トンメンタン「わいらのしたことゆうたら、リンゴくらって昼寝しただけでまんがな」

アホな面して首かしげる三人。

ダサイネン「（ハタと）そうだね！ぼくちゃんたちきっと、聖母マリアさまになっちゃったのよン」

ヤンヤン「マリアさま?!」

ダサイネン「だってェ　マリアさまも神さまのお告げで、キリストさんを産んじゃったんでしょ?!」

ヤンヤン「なーる」

トンメンタン「ほんじゃわいらの子ォも」
ヤンヤン「キリスト以上のおえらいさんってわけだね」
ダサイネン「もーち、決まってるじゃん！」
独断的に決め込み、手を取り合って感激する三悪。
そこへ鍋ぶら下げた空作がやって来て、
空作「ああ…チャンコ鍋が煮えたけど」
トンメンタン「わいら相撲とりにする気ィか？」
ヤンヤン「文句たらするんじゃないよ！今は栄養第一」
ダサイネン「そだ！ドクター・アダムのおっしゃったエデンの池のお水を飲まなくっちゃ」
トンメンタン「空作、水汲んで来いッ」
桶を抱えて素飛んでいく空作。
三悪、ガツガツとチャンコ鍋を食らいながら
ヤンヤン「こうなったら何が何でもパズルを手に入れるんだよ！」
トンメンタン「オシャカパズルのお宝さえありゃ、子供に苦労させんかてすむねん。わい、貧乏して育ったさかい……ぐぐ（思い出泣き）」
ダサイネン「ぼくちゃん、きっと清く正しく美しいママになってみせちゃう！」

空作の汲んで来た桶を奪い合って、

三悪「安産祈願、お宝成就、安産祈願、お宝成就」

その様子を、物陰から窺っている怪しい人影がある——ドクター・アダム。

ドクター・アダム「フフフ……やれ飲めもっと太れ…」

ペロリと舌なめずりした瞬間、奇怪なナマズ妖怪の正体をさらけ出している——。

（前半）

11

田園風景

白馬に乗った法子ちゃん一行がやってくる。

法子「まるで絵ハガキみたいに美しい処ね！」

浄「エデンの池なんて、名前からしてロマンチックだし、どんな処かなァ」

八つ男が、例のリンゴの樹に気付く。

八つ男「ぼくの大好物だ！」

リンゴをもぎ取ろうとする。

法子「八ちゃん！　はしたないのことよ、つまみぐいなんて」

叱りながら、横目で一方をこなす。

道端ですすり泣いている村人たちがいる。

浄「みんな、どうしたんですか？」

村人一「わしの大事な一人息子がいなくなっちまっただ」

村人二「おいらの娘も…」

村人三「ある日突然、太り出したと思ったら、それっきり…」

法子「まあ、お気の毒に…。一日も早く娘さんや息子さんが戻られることを、わたくしたちもお祈りさせていただきます」

手を合わせる法子たち。

村人一「ほんにご親切に……」
目頭を押さえて去っていく村人たち。
八つ男「太り出したらいなくなったって、どういうことだろう」
法子「なんだか気になるわね」
浄「とにかく、エデンの池を探してみようぜ！」
云った途端、リンゴの樹の根元から池の標識がせり出してくる。
びっくりする法子たち。

12

エデンの池のほとり

聞こえてくるシェープアップ体操のテープレコーダ。
その横で、ずんぐり太った体を海老反りにしたり、短足突っぱらして体操に励んでいるヤンヤンとトンメンタン。
空作も、背中を押したり、足首押さえたりして、手伝わされている。
ヤンヤン「（苦しげに）アン・ドウ」
トンメンタン「トロは大トロか好きでまんねん」
ヤンヤン「お前にゃ食い気しかないのかい⁈」

トンメンタン「そういえば、わいよりいやしいダサイネンの姿が見えまへんねん」
キョロキョロ見回すヤンヤンたち。
ひっそりと樹にもたれ、ダサイネンが読書している。
びっくら駆けよるヤンヤンたち。
ヤンヤン「熱でもあるんじゃ…」
トンメンタン「それともオタフク風邪…」
ダサイネン「失礼ねッ世界おブンガク全集よン」
たまげて腰をぬかすヤンヤンたち。
トンメンタン「こりゃ重症でまんねん」
ダサイネン「人の親になるんですもの、おキョーヨーくらい身につけなくっちゃ」
ヤンヤンたち「キョーヨー…」
ダサイネン「ソーヨー。（本を開き）おシェークスピアにおドストエフエフエフ（舌を嚙みそうになって）…そいから有名なお西遊記も…」
その言葉にハッとなる一同。
トンメンタン「大事なことを忘れるとこやったねん」

ヤンヤン「法子たちもパズルを探してもうじきこっちの方に」
ダサイネン「ぐずぐずしちゃいらんないわよ！」
ヤンヤン「のようだわねえ……」
木立ちの向こうからやって来る法子たちが窺える。
「…！」となる空作。
トンメンタン「いっそ邪魔者からやっつけたるねん」
ペッペッと手にツバ付けて対決の構え。
空作「（慌てて止めて）トンメンタンさん、怪我でもしたら…」
ダサイネン「そーよ、ぼくちゃんたち、ただの体じゃないんですもん。バイオレンスは胎教にいけないと思うわン」
トンメンタン「それもそーやな」
ヤンヤン「いつになったら身軽になれるのかねえ」…
ダサイネン「ドクター・アダムにベビーのデビューしちゃう予定日を聞きにいきましょうよン。オムツの準備もあるもの、ああ忙し…」
ヤンヤン「（呆れて）しっかりママさんになる気だよ」
ダサイネン「ぼくちゃんって、思いの外、平凡な女の一生が似合ってるみたいン」

トンメンタン「空作、わいらが医者に行っとる間にパズルの手掛かり探しとくんやでェ」

空作「任しといて！じゃ、行ってらっしゃーい」

三悪「ヤレホレドッコイ」

腹突き出してドタスタ駆けていく。

素早く近くの繁みに隠れる空作。

と、何も知らずにテクテクとやってくる法子たち。

法子「まあ、きれいなお水、ひとくち飲んでみましょう」

水をすくった手に、コツンと小石が飛んでくる。

法子「痛…」

水をこぼす。

と、その水がかかった草花がみるみる大きくなる。

法子たち「(ギョッと)…！」

繁みから、小石を手にした空作がホッとしたように胸をなでおろしている。

13

ドクター・アダムの家・表

やって来るヤンヤンたち。
樹々が無気味に騒いでいる。
ヤンヤン「なんだか生あったかい風だねえ」
ダサイネン「肥えたから寒さを感じなくなっちゃっただけよン」
と入っていく。
その家の中から、シュッ、シュッ……と、刃物を磨ぐ音が聞こえているが、もとより勘の鈍い三悪に聞こえるわけはない。

16 同・中

揺らめくランプの明り。
シュッ、シュッ……メスを磨いているのは白衣を着たナマズ妖怪である。
相変らず胸にぶら下げているドクロ聴診器。
ナマズ妖怪「あのアホどもかなり脂がのってきたわい……」
「アダムせーんせ！」
ヤンヤンたちの声に仰天するナマズ妖怪。
咄嗟に身をかくそうとするが、同時に入って来てしまうヤンヤン

たち。
ナマズ妖怪の姿に
三悪「で、出たァ〜」
ナマズ妖怪「（ギラッと）見たな！」
襲いかかるナマズ妖怪。
逃げまどうヤンヤンが蹴っぽった椅子につまずいたはずみに、ド
クロ聴診器がはじけ飛ぶ。
そのドクロ型の裏側にはめこんである銅板。
ヤンヤン「あっ、パズル！」
思わず手を伸はす三悪。
ナマズ妖怪「こいつはわしの大事な商売道具じゃ！」
一瞬早く聴診器を拾うとメスを振り上げる。
ダサイネン「キャイ〜ン」
入口に殺倒するヤンヤンたち。
だが太りすぎているので三人一緒には出られずにもがきまくる。
グサッ！扉に突刺さるメス。
三悪「ヒェ〜」

ヤンヤン「お、お命ばかりは……なんならこのトンメンタンをいけにえに！」
トンメンタン「ダサイネンの方がダシが出るねん」
ダサイネン「何をおっしゃる、おいしそうなヤンヤンしゃん」
自分だけ助かろうともみ合う三悪。
ナマズ妖怪「やめい！内輪もめは見苦しい」
ダサイネン「じゃぁおめめ閉じて見ないでてェ」
ナマズ妖怪「よいしゃ」
のせられてつい目を閉じてしまう妖怪。
ナマズ妖怪「もーいいかい」
ヤンヤン「まーだだよ…」
その隙にコッソリ逃げようとする三悪。
ナマズ妖怪「もういい……（キラリ目を開けて）ズルはなしじゃ、待てーッ」
ドタスタと窓から飛び出した三悪、びっくり急ブレーキ。
三悪「ヒ…ッ」
目の前に立ちはだかっているナマズ妖怪。
ニタニタとメスをもて遊びながら、
ナマズ妖怪「安心せい。だれもお前たちを殺したりはせん。いとしゅうていと

しゅうて、たべたいくらいじゃ、ペチャペチャ（舌づつみ）」

ヤンヤン「え……」

トンメンタン「ほ、ほんまでっかいな」

ナマズ妖怪「人間とは違う。妖怪、嘘つかない」

タックル組んで作戦会議の三悪——。

ダサイネン「ぼくちゃんたちのことかなりお気に入りみたいよン」

トンメンタン「わいの肉体美に参ったんやろか」

ブルルンとでっかい尻を振る。

ヤンヤン「こりゃうまく利用すりゃ一石二鳥……」

ニッとほくそ笑むヤンヤンたち。

それを見てナマズ妖怪もほくそ笑んでいる。

ナマズ妖怪「Ⓜ フフフ…オメデタを本気にするとはメデタイ奴ら。デブビタンをたっぷり含んだエデンの池の水を飲ませただけじゃ。もっと太らせた処で…」

舌なめずりしようとするが、ヤンヤンが振り向いたので慌ててベロを引っ込める。

ヤンヤン「（色っぽく）妖怪さん、ぜひともお耳に入れちゃいたいことが…」

ゴニョゴニョと何やら耳うち。
ナマズ妖怪「な、なにッ、家宝のドクロ聴診器を狙ってる奴がおるじゃと?!」
ダサイネン「そーなのよン　それもぼくちゃんたちみたよな子持ちとは大違い」
トンメンタン「ピッチピチのティーンエージャーでまんがな」
ナマズ妖怪「ティーン…ゴックン、おいちそ」
云ってしまった口許をハッと押さえる。
ナマズ妖怪「そんな奴らは許せん。すぐにもひっ捕らえて…ナマズニョロニョロヒゲピンピン……」
呪文を唱えるや妖怪メカ（ナマズメカ）に変身。
雄叫びを上げて躍り出ていく。

15

エデンの池の近く

ズン！　出現するナマズメカと三悪。
対岸には法子ちゃんたちの姿が。
ナマズメカ「あいつらだなッ」
ヤンヤン「なんなら聴診器をお預り…」
ナマズメカ「それには及ばん」

聴診器をつけたままザブンと池に飛び込んでしまう。
トンメンタン「もちっとだったでまんねん」
ヤンヤン「まあいいわさ、敵さんがチャンチャンバラバラしてる隙を狙って…」
ニッと顔見合わす三悪。
×　　×　　×
池面を見つめて思案顔の法子たち。
浄「この池のどこにパズルがあるっていうんだ！」
と、ザワザワと池面が波立ち霧がたちこめてくる。
法子たち「！」
その霧に浮かぶ妖怪の目がぐんぐん近付いてくる。
妖怪の声「フフフ…お前たちを食ってやる！」
法子「キャ〜」
勢いよくタンバリンを打つオモンキ。
その響きが超音波となって天を駈ける。

16 近くの森の中

吃っと天を見上げて待っていた空作に金色の超音波が降り注ぐや

空作「待ってたぜ、オモンキ！（九字を切り）オシャカマーン！」
オシャカマンに変身する。
活弁士の声「説明するまでもない。クーちゃんこそ我らがオシャカマンなので
ありまーす！パンパンパンパンパン!!」
キントンサーフィンに跳びのるオシャカマン。

17 エデン池

妖怪の声「フフフ…ガハハハ」
霧の中から現われ、法子たちに襲いかかるナマズメカ。
法子「あれ〜〜」
そこへカッコよくキントンサーフィンで飛来するオシャカマン。
オシャカマン「オシャカマン参上！」
如意棒を振り回してナマズメカを叩きのめす。
×　×　×
繁みからハラハラと首を伸ばしている三悪。
トンメンタン「雲ゆきが不安でまんねん」
ダサイネン「どーすンのどーすンの?!　今週も負けちゃったりしたら」

ヤンヤン「男ならジタバタすんじゃないよ！」

ダサイネン「（胸押さえ）やーだ、男だなんて…」

かまわず龍笛を吹くヤンヤン。

「おまっとさんどーすえ！」

何処からともなく駆けて来たカンガルーメカの龍子ちゃん、ボワンと飛行物体になる。

三悪、それに乗り込んで浮上すると、やられかけているナマズメカの頭部に合体。

×　×　×

ヤンヤン「ジャンボパワーアップだよ！」

×　×　×

同時にナマズメカもグオーンと巨大化。

オシャカマン「オシャカマン二段変身！」

オシャカマンも負けずに巨大化する。

激しいメカ合戦——。

ナマズメカは川に誘い込むが、オシャカマンもキントンサーフィンを操って反撃。

トンメンタン「絶望的でんがな」
ダサイネン「オシャカマンなんてオシャカになっちまえ〜〜」

× × ×

オシャカマン、頭の毛を抜くとプーッと吹く。
その毛は小ガニのゾロゾロメカになって、ナマズメカに群がる。

× × ×

トンメンタン「これがほんまのサルカニ合戦!」
ヤンヤン「冗談こいてる場合か!ドヒャ〜〜」
コクピットまで小ガニが侵入して、チョッキンチョッキンとハサミで切りまくる。
トンメンタン「な、なにすんねん」
ダサイネン「どーせ切るんならスネ毛にして〜〜」
だが、次の瞬間、ドカーン!と大爆発。
木っ葉みじんに吹っ飛ぶヤンヤンたち。
三悪「ギャギャッ」

× × ×

ナマズメカはただのナマズになって岸辺に打ち上げられている。
その腹のドクロ聴診器から転げ落ちるコッパズル。
怯えて見守ってた法子たちが気付いて、

法子「まあ！あんな処にパズルが……」

駆け寄るとしっかりと手に取る。
と、聞こえてくる村人たちの歓声。

×　　×　　×

妖怪の呪いが解け、行方不明になってた村の若者たちが森の奥から走り出てくる。
「おっ父ー」
「おっ母ー」
両手を拡げて迎えに走る村人たち。
その頭上はるか、キントンサーフィンに乗って去っていくオシャカマンの勇姿。
手を合わせた法子たちが見送っている。

18

オシャカ学園・校長室

パズル板にパズルの破片をはめるオチャカ校長。
ピカーッと黄金色に光る。

浄「やったァ!!」
手をとり合って歓声を上げる法子たち。
鍵をくわえたオシャカン鳥が飛んで来る。

校長「戸閉り用心、オシャカ金庫……」
パズル板をオシャカ金庫に仕舞うと、再びその鍵を持って飛び去っていくオシャカン鳥。

オシャカン鳥「アホ〜〜 アホ〜〜」

法子「オシャカマンによろしくねーッ」
手を振って見送る法子たち、校長、かんの先生。

19 リンゴ林

ペシャンコになった腹を抱えて打ちひしがれているヤンヤンたちに、

空作「ただのリンゴの食いすぎだったんだよ。さあ、ぼくの買って来た消化剤を飲んで!」

ダサイネン「やっぱぼくちゃんたち、マリアさまにはなれなかったのよねン」
トンメンタン「わいらにまっとうな人生なんて……」
ヤンヤン「ネクラになってるより反省会だよ！失敗の原因をてってい的に…」
空作「それはオシャカさまの御言葉を守らなかったからでーす」
三悪「（合唱）腹も身の内、腹八分目！」

　頭上からザーっとリンゴが降ってくる。

三悪「痛た、た、た…」

　逃げまどうが、どこもかしこもリンゴの木ばかり、やがて、リンゴにうずもれていく三悪に――。

活弁士の声「あーありがたやオシャカマン、正義の味方のオシャカマンの来週の活躍やいかに。
　乞うご期待にて、パパン――――!!」
　画面に拡がる大扇子にスーパー。
　『この物語は創りものであり実在のものではありません』

（完）